

## 開会の辞

大東文化大学国際比較政治研究所長 土岐 寛

地域問題とか、環境問題というのは、かつては局地的な現象でありまして、その地域地域で対応するという形でしたけれども、この20年くらいの中に都市化、工業化がどんどん進みまして、企業活動も非常に地域を超えて活動しているわけで、その影響というものも非常に広範囲にわたって現れております。特に近年は、地球温暖化問題などに端的に見られますように、その影響というものはもう全地球的になっているわけで、我々の日常活動というものが国際的な広がりを持っている。あるいは、全地球的な関わりをもっているということで、非常に重要な課題になっております。

ただ、国際的に見た場合は、それぞれの主権国家があるわけで、環境問題はかなり内政的なものにならざるを得ず、その合意を取りつけて、全体環境の保全を図っていくには難しいものであります。国境が入り組んでいるヨーロッパなどでは、そのために環境政治学という学問分野が、かなり早くから発展しております。

今日お見えの両先生も、その方面のご研究を専門にされている著名な方です。これから、お二人の先生のお話を聞き、後半はパネルディスカッションということで、進めていきたいと思っております。

今、壇上に登っておられる先生方をご紹介しますと、私の隣りにおられる丸山先生、山梨学院大学の先生です。両先生の基調報告の後から、討論の取りまとめといいますか、司会を実際にやっていただくこととなります。

それから、そのお隣りが、ロビン・エッカーズレイ先生でありまして、メルボルン大学からゆうべお見えでした。著名な「緑の政治思想」という新しい政治学の専門家でございます。

それから、そのお隣りに通訳をしていただきます渡部先生がおられます。それと同じく通訳をしていただきます本学の経済学部教授の近藤先生であります。

それと一番左の方におられますのが、イギリスから見えましたアンドリュー・ドブソン先生であります。先生もゆうべお見えでありまして、環境政治学に関

しましては世界的に著名な先生でございます。

それでは、これから基調報告に入ります。初めにアンドリュー・ドブソン先生の方からスピーチをお願いしまして、適宜、段落を区切りまして通訳をしていただきます。アンドリュー・ドブソン先生はたくさんの著作を書かれておりまして、ヨーロッパのみならず、全世界的に著名な先生でございます。現在日本には、環境政治学という学会はありませんけども、これから日本においても要請が強まってくるのではないかと思います。貴重なご意見が拝聴できると思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

では、ドブソン先生、お願ひします。(拍手)